高円宮杯に出場して

日之影町立日之影中学校　３年　田中　万葉

　私は、この英語弁論大会に出場して、たくさんのことを学びました。

　私がまず地区大会に出場を決めたのは６月。題材は、もう親と話し合って決めていました。それから、昼休み、放課後、夏休み・・・ALTの先生と一緒に練習に励みました。その結果、地区大会で見事、最優秀賞を頂きました。まさか、そうなるとは思っておらず、嬉しさと少し不安な気持ちがありました。

　それからも、学校や家で練習を続けました。県大会当日、私は平常心を心がけました。初めての経験で、周りの中学生は私より遥かに英語がうまく、「県大会に出場するだけで良い経験だ」と思っていました。「プレッシャーやその場の雰囲気に押しつぶされず、自分のベストを尽くせれば良い」と自分を信じてステージに立ちました。あの時の光景は、今でもはっきりと覚えています。結果は最優秀賞！新聞に掲載されたのを見て、「自分は宮崎県代表なのだ」と実感しました。

　待ちに待った全国大会。県大会と雰囲気が違い、とてもハイレベルでした。他の人のスピーチを聞いていると、自分とは目の付け所が違い、また自分の思いや考えをしっかりもっていて、それを人に伝える発音や表現の工夫など、学ぶことがたくさんありました。全てのスピーチが興味深く、どれだけ長い間聞いても飽きることがありませんでした。「自分は未だ完璧ではなかった。もっと練習し、できることがたくさんあった・・・」と思いました。

　宿泊先では、同じ「朝日の間」の生徒たちとすぐに打ち解け、他の部屋の生徒たちとも全日本中学生会議（略して中会）などを通して、たくさん交流することができました。毎晩、お世話をして下さった大学生、そして同じ中会のメンバーとゲームをしながら仲を深め、語り合い、とても充実した日々を過ごすことができました。この大会に集まった生徒の中には、英語で会話をする生徒、英語以外の言語を話せる生徒もいました。とても驚きました。しかし、その生徒たちと同じ舞台に立ち、交流することができて、自分も頑張ろうという意欲があらためて湧きました。

　この４日間は、とても濃く、充実した学びの多い日々でした。この数日の出会いで、価値観が変わりました。この出会いと様々な発見は、私の一生の宝物です。ここをスタートに、これからもたくさんのことに挑戦していきたいです。

全国大会を終えて

日之影町立日之影中学校　教諭　鹿島　涼子

万葉さんは、耳が良く、発音がとてもクリアで、１年生の頃から英語学習に大変意欲的な生徒でした。授業中も自分の考えを臆することなく発言できる力と、そのきれいな発音で周りの生徒の模範になってくれています。

昨年度の西臼杵地区の英語暗唱弁論大会、暗唱の部にチャレンジした万葉さんでしたが、惜しくも２位。県大会出場を逃しました。そして今年度、弁論の部に出場し、最優秀賞を頂いて初めて県大会への切符を手にしました。県大会の会場では、「先生、みんな英語うまくて、すごいです・・・」と不安そうでしたが、ステージに立った彼女は普段と変わらず堂々と意見を述べることができていました。そして、全国大会。練習の成果を出し切ってはくれましたが、結果的に決勝大会への出場は叶いませんでした。しかし、多くの素晴らしいスピーチを聞き、宿泊先で全国から集まった出場生徒たちと交流した経験は、かけがえのない彼女の財産となったことと思います。それは引率した私にとっても同じです。このような機会を与えてくれた万葉さん、万葉さんの御家族、そして関わって下さった全ての方々に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。